

青年部通信 礎 No.9



- 新青年部長あいさつ (泉ヶ丘保育園 渡辺信行)
- 平成15年度青年部組織図
- 日保協青年部合同懇話会 (平成15年1月30日)
- ぬきうち保育園訪問 in わんぱく保育園
- ぬきうち保育園訪問 in 土浦愛隣会保育所
- 研修レポート「こどもを守る総決起大会 in 日本武道館」

新青年部長あいさつ

泉ヶ丘保育園 園長 渡辺 信行

当青年部は、平成3年に茨城県民間保育協議会の部会として発足し、園の後継の立場にある若手保育者が、調査研究・研修・広報の各委員会活動及び全国組織（日本保育協会青年部・全国私立保育園連盟青年会議）との連携を行なう中で、切磋琢磨することを目的として活動を行なっております。

今日、保育現場では法的に義務付けられた苦情解決・第三者評価への対応、少子化対策・待機児解消への取り組みが求められる中、幼保一元化・運営費の一般財源化の論議がなされるなど、新たに対応しなければならない問題が内外共に以前には考えられないほど多種多様に及んでいると思われます。われわれの根拠法である児童福祉法が、平成10年に行なわれた50年ぶりという変更以来、毎年のように改正がなされていることから、最近の変化はより急速であるという認識を強く持たなければなりません。

このような時代にあって、今後の保育者は自らが主体的に発言し、積極的に行動する事が求められており、青年部としても一層の研鑽を深める活動を進めていきたいと思ひます。

皆様のご協力とご支援、そしてご参加をお願い申し上げます。



平成15年度 茨城県民間保育協議会青年部事業計画 (案)

事業

1. 全体会
2. 広報委員会
 - ・青年部通信「礎」年2回他臨時号(予定)
3. 研究委員会
 - ・視察研修
 - ・保育園職員にかかわる研修
 - ・その他必要に応じた研修
4. 調査研究委員会
 - ・各種保育園経営に関わる調査研究
5. 日本保育協会青年部活動への参加
 - ・全国青年保育者会議
 - ・保育セッション
 - ・青年部セミナー
 - ・その他
6. 全国私立保育園連盟青年部活動への参加
 - ・全国私立保育園連盟青年部会議
 - ・その他
7. 各種研修会への参加



茨城県民間保育協議会 青年部組織図



○各委員長あいさつ

研修委員会

研修委員長 細田峰彰（深芝保育園）

昨今、保育を取り巻く情勢は、規制改革等に関わる様々な課題・問題が山積しております。このような中、我々青年保育者は、時代の流れを探りながら、今何が必要で、何が大切なのかをしっかりと見極め、諸処の問題に対処していく能力が強く求められてきているように思います。

これを踏まえ、研修委員会では、会員の資質向上に繋がるような実りある研修を企画し、実践していきたいと考えております。皆様方のご参加、ご協力、宜しくお願い致します。

調査研究委員会

調査研究委員長 新井平一（石田保育園）

私たち青年部調査研究委員会は、皆さんが日常の保育園運営において知りたいことや疑問に思っていることを調査研究することを主な業務（任務）にしています。年度当初に調査テーマを決めて、各保育園や関係機関に調査書を送付しその結果を集計して冊子を作成しています。この冊子を保育園や行政担当者へ送付することで「参考になる」と大変、感謝されています。皆さんも当委員会に入会し、自分の可能性にチャレンジしてみませんか!!

広報委員会

広報委員長 逆井康志（小山保育園）

青年部通信「礎」を編集発行が主な活動です。本年度、6月・2月に「礎」No.9・10を発行する予定にしています。また、ぬきうち保育園訪問として、各青年部員の園を見学させて頂いています。各園が、いろいろな工夫を凝らした子ども達が快適に生活できる環境作りを、青年部員、民間保育園の皆様に報告紹介しています。

青年部の中でも、広報委員会は取材で県内各地の園を見学させて頂いていますので、ご興味がある方は是非、当委員会に入会してみてもいかがですか？

アイデアや保育のヒントがいっぱい見つかるかも知れませんよ。

○日保協青年部合同懇話会(H15.1.30)

日保協青年部合同懇話会報告

日 時：平成15年1月30日(木)

会 場：水戸市・茨城県福祉会館 2F 団体会議室 (14:00～17:00)

参加者：日保協青年部情報委員会 委員長／山口直規

副委員長／土井淳宏・内藤俊穂

委員／松山益代 藤井謙昌

担当副部長／伊澤昭治

茨城県民間保育協議会青年部員 20名

○山口委員長、川崎青年部長あいさつ、参加者自己紹介

○今回の趣旨説明(山口委員長)

今本当に求められている保育園の姿を模索するため、保育制度や保育現場に必要なと思われるもの、必要でないものを整理したい。また、顧客満足度を高めるための手段として「第三者評価システム」「認可制の必要性」について検討しているが、その過程で各地方に行き、それぞれの状況を検証し始めたところである(12月大阪、今回茨城)。また、評価システムについてどのようなものが本当に効果があるのかを考察したい。いずれにしても、利用者の満足は「保育の質の向上」なくしては得られないものだ。

議題：

(1) 委員会報告

「第三者評価について」(内藤)

「東京都認証保育所について～民間参入の現状～」(土井)

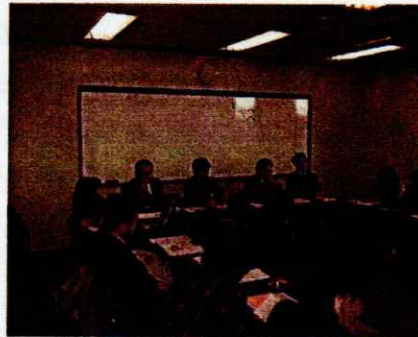
(2) 上記に対する質疑応答

【第三者評価】

・第三者評価について、茨城県では県社協が中心になって評価機関を作る予定。受ける側は現在2園が手を挙げている。

・評価内容は、チェックリストがベースになっていて、抽象的にくくって表示されている。

・チェックリストについては、保育指針を実際に運用していく上でのマニュアルとして利用するのが良いと思う。自園の保育内容の確認、他との差別化を計るための



ひとつの手段として捉えては？

- ・評価基準の断片は、こうですよと提示してほしい。
- ・受ける側から評価機関や評価者（サーベイヤー）の選択はできるのか、県社協し
かない県ではどうなるのか、サーベイヤーによって主観が入るので評価の均一化は
はかれるのか…などの懸念もある。
- ・サーベイヤーも余程の訓練を受けていないと、ちゃんとした評価をするのは無理
があるのでは。
- ・（現場の保育について）ハード上無理なものは無理だし、一所懸命している姿勢
はわかるが、それらを点数化するのは難しい。
- ・法的に必ずしなければならないとか、保育の質の向上を図るとかいったプラス思
いで受けるしかないかも。
- ・評価システムは、質の担保、質の維持・向上が意義になる。
- ・これを受けることによって、質が向上するのですと東京とは言い切った。東京都
では毎年受けることを義務づけ、その結果をホームページで公表するという。
東京都では現場でさまざまな事故が発生しているので、評価を受けることを義務づ
ければそれらもある程度防げると考えている
- ・第三者評価は、現状の指導監査では見切れない面を補うものなのか。
- ・第三者評価を受ければ、指導監査も書類だけになる可能性もある。

【認証保育所】

- ・コンビチャチャでは、保育料の滞納にはどう対応しているのか。
- ・ほとんどが時給のパートだというのが、各保育士の表情や動きはどうだったか。
- ・待機児童解消が目的であるから、入所対象は、認可保育所に入所できなかった子
もたち
- ・サービスの内容を明示することで、利用する側も預ける前に理解できる。

(3) 茨城県における保育園を取り巻く問題や状況

- ・過疎地と都市部との人口格差は他の例に漏れず大きい。園児数にばらつきがあり、
職員の確保も難しい。
- ・郡部や調整区域の地域では子どもが増える見込みがない。
- ・子どもの環境を考えると、安易に定員増にすることに抵抗を感じる。また、増員
は、自治体と長期的に見据えて考慮すべき。
- ・定員オーバーしても待機児童解消にはなっていない。
- ・保育園の適正人数はどれくらい？ …150になると保護者の顔がわからなくなる。

120 が限界ではないか。

・幼稚園は200、300、500 とかの現状もあるが、管理者側からするとその数はどうなのか。

・保育園は一日の生活を保障し育っていく場所と捉えると、大きな集団になることに抵抗を感じるし、管理的にもなる。



・人数が多くても主任保育士の力量如何でどうにでもなるもの。スーパーバイザーの存在になれるかが鍵となる。保育は人次第だ。

・いずれにしても、子どもたちにとって本当に必要な制度は何かを考えてほしい。子どもありきの制度であってほしい。

(4) 結び

運営費の一般財源化について、ちょっと忘れられている状況になっているが、「子ども養育保険制度」の導入（介護保険のような）の話がある（1/5 読売に掲載。一般財源化に代わるもの？）。上智大・山崎教授が「児童年金」という名前で提言してきたが、現在中央のほうで積極的に議論化されてきている。児童年金によく似た保険形式を導入したらどうかと提案している。導入されたからどうなるというのは全く不明。もしかすると（契約制など）大きく制度が変わるのでは？ 入所問題などまだくすぶっているが、良い、悪いの次元でなく、知っていることが大切だし、保育園の存在を考えるよいチャンスの時と考えたい。入所定員については、県は3年間増になっている施設は、定員増にするようだ。ただし、「増」にして減ったときどうするのかなど、県の見解を公表してもらうことが望ましいかも。（茨城県・渡辺青年副部長）

今後、当委員会としても、これから出てくる数々の制度について必要な情報を収集し、みなさんに伝えていきたいと思っている。みなさんにも、当委員会のホームページに書き込むなどして、情報をどんどん提供して下さい。（山口委員長）

記事提供：日本保育協会青年部 情報研究委員会 副委員長 内藤俊穂氏

ぬきうち保育園訪問 in わんぱく保育園

定員 20 名のアットホームな保育園で
ありながら、ゆとりの施設で伸びやか
保育をしています。



誕生会はその子の誕生日に合わせて行なわれ、料理
自慢の調理員が特別にケーキを焼くのは小規模なら
では・・・

また、「食器は壊れるのがあたりまえ」と、全て家庭用の陶器を使用し、食卓に
は園長自らが摘んだ花が飾られるなど、その気配りは園全体の心地よさを作り出し
ています。



間仕切りをたためば3つの部屋が1つにつながられます。このゆとりある空間で、
子育て支援センター事業もやっています。

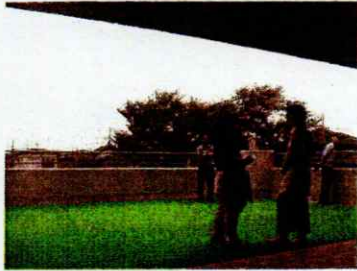


随所に工夫がいっぱい・・・

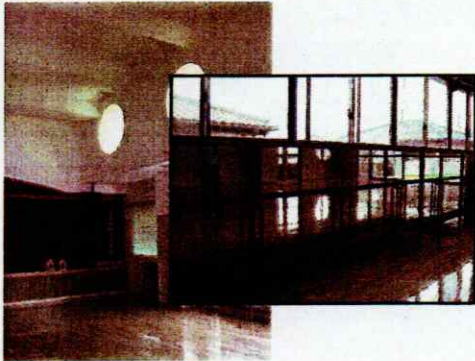
- ・部屋のドアは、両側からロックできる特注のツマミが子どもの手の届かない位置に付けられています。
- ・開閉可能な間仕切りは建具屋さんのオリジナル。既製品より軽量で、木造建築でも無理なく着きました。
- ・トイレは指詰め防止のため、ドアではなくカーテンになっています。
- ・レールを利用した荷物掛けのフックは、人数の増減や荷物の量にも柔軟に対応できます。

ぬきうち保育園訪問 in 土浦愛隣会保育所

新しくなったお城のような園舎の
前で笑顔の素敵な園長先生

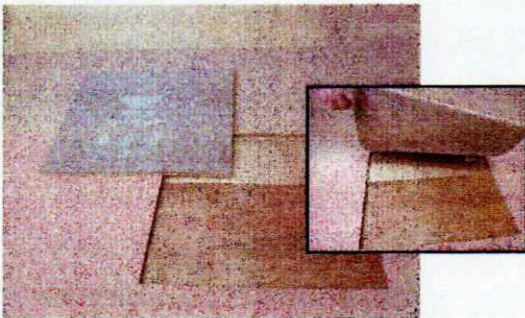


バリアフリー式で中庭といえるくらい広々と
したホールから続く2階のベランダ。
日当たり良好



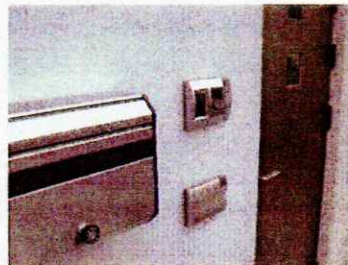
天井も高く、大きな窓とガラスと鏡張
りでとても開放的なホール。

あたたかいものは温かいうちに！
給食を2階へ運ぶエレベーター。



汚れたところだけ取り外し、
そのまま洗えるカーペット。

指紋でカギが開く最新式の
セキュリティシステム



こどもを守る総決起大会in日本武道館

平成15年5月27日

「こどもを守る総決起大会に参加して」

ひまわり保育園 園長 小橋 達也

どんよりした天気の中午後12時すぎに武道館に到着すると、すでに駐車場には近県ナンバーの大型バスが何十台も駐車していた。全国各地から一万人近くの保育関係者が集うということはそれだけ現在の保育の状況に危機感が強いのだと感じた。



会場(アリーナ)の様子

第1部は午後1時からフォローアップセミナーとして「清水國明の自然

樂校」というタイトルの講演がおこなわれた。「都会での生活は安全だが生きるための様々な力をつける機会が少ない。自然には人間の本当の力を目覚めさせ逞しく成長させる力がある。保育のなかにおいても自然体験をさせてみてはどうか。」と提案された。清水氏はテレビで観るとおり、冗談を交えた軽妙な語り口で参加者の気持ちをリラックスさせてくれた。

第2部は午後2時から村上章公実行委員長により「こどもを守る総決起大会」の開会が宣言



茨城県支部の様子

され、主催者を代表して斉藤十朗日本保育協会長が「現在、経済財政諮問会議、地方分権推進会議において、こどもの立場や状況を見向きして規制緩和や経済性を優先した提言がなされている。全国の保育関係者が一致団結し、このような流れを阻止し、子どもたちの保育環境を守るための総決起大会を開催する。」と挨拶した。

次に、各職種の代表者がそれぞれの立場から発言する「子どもを守るメッセージ」において、現行制度の存続を訴える発言がなされた。

理事長代表(三重県・藤谷氏)…財政難を理由に幼保一元化、一般財源化、調理室設置義

務撤廃が打ちだされ、これまで50年続いた保育政策が破壊されようとしている。このような一方的な改革に反対する。



アリーナの様子

園長代表(広島県・高橋氏)…諸改革会議の中に子どもを本当に理解できる構成メンバーが参加していないことに問題がある。将来を担う子どもの健全な育成を阻害するような改革には反対する。

保育士代表(鹿児島市・福留氏)…子育ての専門家としての誇りを持ち真に望ましい保育制度の中で子育てに従事していきたい。市町村ごとに格差が生じるおそれのある改革に反対する。

以上のように代表者の発言の多くは、急激で一方的な改革へ不安と憤りを覚えるというものだった。

また、橋本龍太郎全国保育関係議員連盟会長は保育界のために長年尽力いただいた経緯から「これまで幼保一元化の問題は何度か持ち上がり、幼児教育機関を整備し直そうとする機運があった。しかしそのたびに様々な議論のすえ保育園、幼稚園それぞれの存在意義が認められ現在に至っている。今回のようにただ財政面からだけ



出席された保育関係議員

の無責任な議論が行われたことはなかった。私も皆さんと共に現行の保育制度を維持するために全力を尽くしたい。」との心強い応援の挨拶をされた。

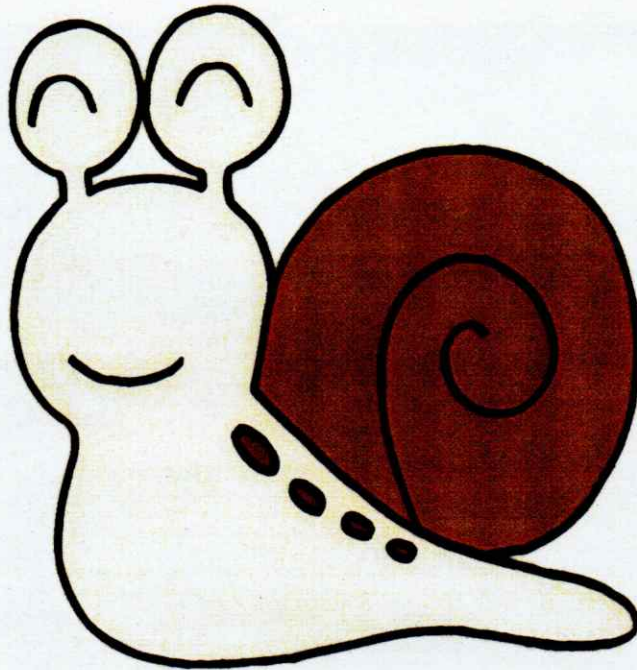
そして、「子どもを守る総決起大会アピール」が盛大な拍手を以て以下のように採択された。

- 1、一般財源化は子どもの保育、福祉の切捨てを招くものであり、絶対に反対する。
- 2、保育の専門的機能と役割を軽視した幼保一元化論は容認できない。
- 3、食は保育の中核をなすものであり、調理室は欠くことができない。

最後に今大会の参加者約一万人が声を合わせて「シュプレヒコール」を行い、改革阻止の決意をあらためて確認し閉会となった。

今回、この集会に参加して感じたことは、財政面で現在の保育制度が維持できないから一般財源化するという性急な論調ばかりが目立ち、財源を確保しようとする努力がなされていないこと、そして少子化対策としてこれまで実施されてきた特別保育、子育て支援などの様々な施策が継続されず、結果的に少子化が進行し国の将来に暗い影を落とすのではないかということである。このような行政改革の流れを阻止するために、我々保育関係者が一致団結し、現在の保育制度の存続を広く社会にアピールし続けなければならないとの思いを強くした。

編集後記



青年部に寄せていただいて2回目、なにも分からず後記を書いています。先日初めて泉ヶ丘保育園にお邪魔いたし、青年部長の話しを伺い保育や行政に対する考え方、青年部に対する姿勢を感じることができ、目から鱗・警策の爽快さを感じた。急速な変化に対応できる柔軟さと、変えてはならない子ども達の笑顔、それが青年部の礎

ガンバ



発行元：茨城県民間保育協議会 青年部 広報委員会

平成15年6月発行